

平成28年度第3回長浜市公共施設マネジメント推進委員会 会議要点録

- 1 日 時 平成29年2月28日（火） 14：00～15：55
- 2 場 所 長浜市役所東館5階 5-A会議室
- 3 出席者 ○委員計11名
石井委員長、中嶋副委員長、有木委員、石田委員、川合委員、北川委員、
國友委員、田中委員、野田委員、橋本委員、松山委員
○事務局5名
松居総合政策部長
行政経営改革課：内藤課長、山口副参事、服部主査、山崎主査
- 4 欠席者 大谷委員、桐山委員、藤田委員
- 5 傍聴者 1名
- 6 開 会
 - ・ 松居部長からの挨拶
 - ・ 定足数の確認
 - ・ 資料の確認
- 7 議 事
 - (1) 長浜市公共施設の状況（平成28年度末見込み）
 - ・ 資料に基づき、事務局より説明。

【質疑・意見など】
（委員長）

 - ・ 今後、新築予定の建物もあるが、平成36年度末には目標数値4万㎡、6%削減を達成する見込みはあるのか。

⇒ 個別施設計画のとおり平成36年度末には8%削減する見込みである。
 - (2) 長浜市公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画（最終案）について
 - ・ 資料に基づき、事務局より説明。

【質疑・意見など】
（委員）

 - ・ 豊公荘の利用者数は分からないのか。

⇒ 利用者数は把握していない。

（委員）

 - ・ 直近5年間の利用者数や施設にかかる費用が出ると、より突っ込んだ議論ができる。

⇒ 次回以降の会議で示していく。

（委員）

 - ・ 上水道施設は100%削減となっているが、本委員会の公共施設マネジメントによるものなのか、以前の事業仕分けによるものなのか。以前からの案件であるのなら、上水道施設分は削減率8%に含めない方がよいのではないのか。

⇒ 本計画では、長浜市が所有するすべての公共建築物の延床面積を計上している。上水道施設については、長浜市地域水道ビジョンにおいて、水道の専門機関である長浜水道企業団に経営・管理の一本化することとしており、平成29年4月に移管する。

(委員)

- ・ 上水道施設は本委員会の公共施設マネジメントによるものではないので、我々の委員会での成果かどうかをはっきりさせるためにも、長浜水道企業団に移管することを本計画P5の注釈に記載いただきたい。

⇒ 注釈に記載する。

(委員)

- ・ 公共建築物の長寿命化を含め、具体的な計画づくりは今後されるのか。

⇒ 長寿命化も含めた個別具体的な計画については、施設所管部署主導で施設の必要性を検討した上で策定していくことになる。

(委員)

- ・ 単に数値だけの進捗管理をするだけでなく、施設がなくなったことで住民がどう感じているのかといったマネジメントサイクルをかけていただきたい。

⇒ 計画を策定して終わりではなく、これからが始まりであると認識している。前回の委員会や説明会でも申しあげたが、公共施設マネジメントを推進していく上で、皆様の知恵をお借りしたい。いろんなアイデアを取り入れながら、本計画の達成に向けて取り組んでいきたい。

(委員長)

- ・ 市ホームページ等に掲載される際には、ただ単に削減した延床面積の数値を示すだけでなく、計画P7に記載されているような成功事例も合わせて示していただきたい。

(委員)

- ・ 地域の方に施設が必要かどうかと問うと、少なからずとも必要であるとなる。市の財政が厳しいということを全面に出して市民を説得いただきたい。

⇒ 限られた予算を施設のために使うのか扶助費に使うのかを皆様に投げかけた上で納得いただけるように説明しているところである。

(委員)

- ・ 本計画P16にある⑥基本方針や⑦今後の施設の具体的な方向性について、書きぶりが教育委員会が言葉にする内容になっている。本計画には、もっと踏み込んで記載いただきたい。

⇒ 本計画は施設を所管する部署の計画を取りまとめたものである。計画を取りまとめていくなかで、もう少し突っ込んだ表現にできないかと施設所管部署と協議したが、結果として本計画に記載している表現になった。

(委員)

- ・ 学校再編と小中一貫教育校とでは、性質が違うものであり、小中一貫教育校について本計画への記載に違和感がある。

⇒ 小学校教育において、1学年最低40人、6学年で240人いなければ、教育が成り立っていかないと聞いている。横の繋がりで統合できる学校は統合を検討し、余呉や西浅井のように物理的に統合が難しいところは上下の繋がりで小中一貫教育校を検討していくこととなる。学校再編も小中一貫教育校も規模を確保するためのものであり、こういった書きぶりになっている。

(委員長)

- ・ 余呉小学校と鏡岡中学校との小中一貫教育校化では、どのような動きをするのか。

⇒ 鏡岡中学校の機能を余呉小学校に移すことになる。鏡岡中学校の跡地をどうしていくかはこれからである。教育施設は、子どもの教育環境を整えることが第一であり、その結果、延床面積削減に繋がっている。

(委員)

- ・ 将来、火葬場は伊香地域で1か所に集約されると聞いているが、小学校も伊香地域で統合して1か所にしたらどうか。
- ⇒ これからの人口動向によるが、教育施設に限らず、将来的には旧行政区を越えた単位で統廃合を考えていく必要がある。

(委員)

- ・ 浅井地域では、もともと5か所あった小学校が3か所になろうとしている。小学校がないなら、ないなりに地域は活性化していると思う。本計画には人口減少や厳しい財政状況等が記載されており、良いことは記載されていない。こういったことを考えると統廃合を前向きに考えていきたい。

(委員)

- ・ 地域の人統廃合に前向きな方ばかりではない。しかしながら、地域の人地域を何とかしたいという気持ちを持っている。1月に開催された説明会は、自治会長改選の時期であったが、多くの方に出席いただき、出席した自治会長からは委員長の講演により公共施設マネジメントを進めていく意義を理解することができたという意見も聞いている。今回の説明会で終わるのでなく、地域の人に対して継続的に説明をお願いしたい。継続的に説明することで、地域の人と率直に議論することができるのではないかと考える。

(委員)

- ・ 学校の統廃合について、当事者だけでなく、まわりの人も理解する必要がある。浅井地域のように良い事例をもっと取り入れていくべきである。

(委員)

- ・ そのとおりである。先進地の良い意見や悪い意見をもっと取り入れた上で検討してはどうか。

⇒ 旧上草野小学校の跡地利用は国レベルでも非常に良い事例として取り上げられている。浅井地域では、教育委員会が統廃合の話を持ち出す前から地域の方は教育現場の状況を十分に把握されており、地域の議員や住民が自発的に動いていただいたから成功した。

(委員長)

- ・ 本計画で、市内の公共施設の状況が明らかになった。次のステップとしては、公共施設をどうしていったらよいのかを市民一人ひとりが考え、議論していくことになる。特に教育施設は約24万㎡と膨大であり、今後どうしていくかを考えていかなければならない。

(委員)

- ・ 学校教育という点では、これまで議論されてきた考え方で良いと思うが、エリアが大きくなることでのデメリット、例えば放課後の遊びに行く先によっては、保護者として心配になることがある。地域の生活面についても議論が必要になってくる。

(委員長)

- ・ 夕張市は小学校が1か所に統合された。生徒はバス通学をしており、バス停にある端末にICカードをかざすと保護者にその情報が発信されるようになっている。苦肉の策かもしれないが、非常に良い事例である。

(委員)

- ・ 子どもの安全は親の責任である。極端な例であるが、小中学校も高校の全県一区制と同様、全市一区制にしてはどうか。腹を括ったような制度も必要と考える。

(委員)

- ・ 個人的であるが、西浅井地域の小中学校を1つにするとか、2か所ある診療所を西浅井支所の空きスペースに入れるとかといった議論をしたいという思いがある。そういった議論は、本日してよいのか、それとも次年度にするのか。

(委員長)

- ・ 本日は、個別施設計画策定に向けての議論をお願いしたい。

⇒ 前回の委員会などでも出た意見は、施設所管部署に伝えている。市から施設の今後について地域の方にお話すると反発を受けやすくなる。我々としては、地域の方から施設をこうしてほしいと提案していただくと動きやすくなる。

(委員)

- ・ 私も「未来の長浜市民に、よりよきものを引き継ぐ」という基本理念のもと、後世の子どもたちにふさわしくない施設を残すべきでないと考え、本計画最終案をしっかりと確認してきた。地域の人から言うと、施設の今後のあり方については市から提案いただきたい。受け皿となる地域づくり協議会や連合自治会に対して、もっとしっかりしてほしいと思うこともある。1月下旬に実施した説明会に欠席された地域づくり協議会や連合自治会にも本計画を渡していただき、公共施設マネジメントについて問題意識を持って取り組んでいただきたい。

(委員)

- ・ 商工会統合の委員長をしたことがあった。統合を進めていくなかで、職員からの反発がすごかったが、少し強引に押し進めてきたこともあって現在に至る。市長や市議会議員は選挙で選ばれていることもあり、公共施設を削減していくというようなマイナス面のことは言わない。閻魔のような存在となる主導者が必要であると思う。

(委員長)

- ・ 平成36年度末までの目標は達成する見込みとなっているが、それ以降は非常に厳しい状況である。総合管理計画の2期目となる次の10年間は良いビジョンを描く必要がある。

(委員)

- ・ 将来的には中央図書館と高月図書館の2館を拠点館とすると記載されているが、高月図書館の入館者数の記載がない。何か理由があるのか。
- ⇒ 長浜、浅井、びわ図書館以外の図書館には、カウントデータがない。貸出冊数であれば、全館のデータがある。

(委員)

- ・ 小中学校について、大人の意見ばかりでなく、子どもの意見を取り入れるべきではないか。統合した学校の生徒に対してアンケート調査は実施されたのか。

⇒ 統合後に子ども向けのアンケート調査を実施している。

(委員)

- ・ アンケートの実施結果があれば、良い事例として結果を示していただきたい。今までの議論を聞いていると大人が勝手に決めているように思えてしまう。

(委員)

- ・ 子どもたちに長浜市に永住してもらうためにはどうすべきかを考えていただきたい。

(委員)

- ・ 丸子船の館や余呉茶わん祭の館について、冬季閉館等の運営方針を見直しましたと記載されているが、実施はいつからか。また従業員等はのことを知っているのか。

⇒ 今年度の指定管理者選定委員会において、申請者より提案いただいた内容であるので、実施は平成29年度からとなり、従業員等も既知である。

(委員)

- ・ 本計画に記載されている内容は、市として方向性が決まっているものなのか、それともこれからのものなのか。1月下旬の説明会を実施する前に、新聞で各施設の方針についての掲載があり、地域には施設の将来が決まったのかと捉えられた方もおられ、私の方にもいくつか意見を受けた。

⇒ 説明会より先に報道があったが、本計画は施設の再編に向けた方向性を示したものであり、統廃合や譲渡等が確定したものではない。説明会でも申しあげたが、市としては、単に除却を進めていくだけを考えているのではなく、市の予算を有意義に使えるようにしていきたいと考えている。説明会出席者からは、よく分かったと言葉をいただいた。

しかしながら、まだ説明不足の部分もあるので、必要に応じて、各地域に出向いて皆様に説明していきたい。

(委員)

- ・ ぜひ、地域の方に対して説明をお願いします。

(委員)

- ・ 施設の使用料について、使用団体によって使用料に差があることを聞く。その差を是正していただきたい。

(副委員長)

- ・ 説明会やパブリックコメント、本委員会を通じてたくさんの意見をいただき、市民の皆様が本計画について感心を持たれていることが良く分かった。本計画は、市の厳しい財政状況から算出した削減目標数値であり、計画を実行していくためには地域特性を考慮していかなければならないことは明らかである。今後、計画を具体的に進めていくためにも地域の方からの意見を吸い上げる仕組みづくりをし、地域の方と一緒にエリアマネジメントを実行していく必要がある。施設を所管する部署との関わりをもっと強めていただき、地域の方に対して極め細やかな説明をしていただきたい。
- ⇒ 既に市と地域の代表とで委員会を組織し、施設の今後のあり方について協議を進めている案件もある。今後も継続していく。

(副委員長)

- ・ 個別の案件だけでなく、常に地域のことを考えていくような外向けの組織体制が必要ではないか。
- ⇒ 個別の施設だけでなく、全体を取りまとめるような組織も必要と考える。公共施設マネジメント推進委員会が、その一役を担うことが可能かも含めて検討していく。

(副委員長)

- ・ 若い方、学生を対象にしたワークショップ形式の会議を開催し、夢のある将来を描いてもらうようなこともしていく必要があるのではないかと考える。
- ⇒ 今後検討していく。

(委員)

- ・ ライオンズクラブでは20年ほど前から市の将来についてワークショップを実施している。他国と比べて日本の教育は至れり尽くせりになっている。まずは感謝の思いを持つべきである。

(副委員長)

- ・ 長浜市はかなり良いまちであると思う。

(委員長)

- ・ 委員の皆さんからは自由活発な意見が出た。まだ発言させていない委員から一言ずつお願いします。

(委員)

- ・ この膨大な計画を作成させたことに感心している。一主婦として生活している目から見て、自分のまわりしか見られていなかったが、本委員会を通じて市全体の施設の状況が見えてきた。市民は施設に対する問題意識を持つ必要があるとともに、我々の意識改革も必要であると感じた。また、長期で見たときに無駄にならないような計画にしていきたい。

(委員)

- ・ 教育施設については、子どもの教育環境を整えていくことが第一であるという考え方が大事である。施設を所管する部署が複数あるが、地域の方と意見交換を進めていくにあたって、横串を指した組織体制で取り組んでいただきたい。

(委員長)

- ・ これまで公共施設マネジメントという考え方がなかったことから、初めて全庁的に物事が考えられるようになったということは大きな一歩であると感じている。この計画に基づいてこれから実行していくことが大切である。
本委員会として、本計画の最終案のとおり承認することとしてよろしいか。
- ⇒ 委員全員 承認（拍手）

8 その他

- ・ 個別施設計画策定までのスケジュールについて説明。
- ・ 次年度以降の本委員会の体制について、本委員会が出た意見を踏まえて検討する。
- ・ 次回の会議の開催については、次年度の新体制になった後に調整する。

【質疑・意見など】

(委員)

- ・ 本委員会に若手や女性を本委員会の委員に入れていただきたい。
- ⇒ 検討する。

9 閉 会

- ・ 松居部長からの閉会の挨拶
これからの公共施設マネジメントについて、本日のように前向きな意見を引き続きお願いしたい。

以上